

Zoomによるオンライン開催

新型コロナウイルス

2022年5月21日(土) 14:00~15:40

参加費無料
事前予約制
先着100名

講演①「新型コロナウイルス感染症の現状と課題」

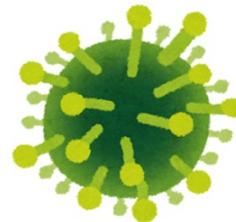
杏林大学医学部総合医療学(感染症科) 教授 倉井大輔

講演②「家庭で役立つ新型コロナウイルス感染対策」

杏林大学医学部付属病院 医療安全管理部感染対策室 看護師 福川尚克

講師③「職場で役立つ新型コロナウイルス感染対策」

医療法人財団 明理会 東京大和病院 内科 長友禎子



講演内容

2019年に新型コロナウイルスによる感染症が発生し、世界的な流行を引き起こしています。この感染症はウイルス変異などで周期的に流行し、日常生活に大きな影響を及ぼしています。この感染症の問題点・日常生活での感染の危険性・有効な感染対策・医療現場で行われている治療などをわかる範囲でわかりやすく説明したいと思っています。また、家庭や会社で役立つ感染対策、実際に感染したらどのようなようになるのかなどにも触れたいと思います。

お申込方法

下記URLまたは右のQRコードからお申し込みください。
参加方法等については後日メールにてお知らせ致します。

<https://forms.office.com/r/mWMN4rVftL>

申込期限：5月18日(水)



お問い合わせ

杏林医学会事務局

0422-47-5511(内線3314)

E-mail med_soc@ks.Kyorin-u.ac.jp

新型コロナウイルスは、感染者の痰・鼻水・唾液の中に存在します。また、会話などの際に、目に見えない飛沫となって、周囲に感染を広げていきます。感染者が咳をすると、その中に大量のウイルスを周囲に飛び散らし、感染をさせやすくなります。初期の報告では感染した患者の2-3割程度は無症状とされています。また、最近のオミクロン株ではその頻度が高くなっていることが推定されています。無症状の感染者でも職場・学校・自宅で周囲の方に感染させます。インフルエンザでは9割程度の患者が初期に高熱などの症状がでて、自ら感染に気づきやすい点が異なります。一方、新型コロナウイルスでは、無症状が多いだけでなく、症状が出た場合も初期は軽微な症状であり、症状の発症約2日前から他人に感染させる能力があります。このような点を比較しても、新型コロナウイルスはインフルエンザより感染させやすい特徴があることがわかります。このようなウイルスが人に感染するようになりながら、現在も変異を繰り返しています。感染は周期的な流行を及ぼすため、患者の増加と医療従事者の不足が相まって、医療現場は機能不全に陥ります。これは、新型コロナウイルス感染症以外の病気でも診療が継続できないことを意味します。

この感染症は初期には治療法がありませんでしたが、現在ではいくつかの治療薬が医療現場で用いられています。2020年初めの頃は、呼吸不全などで入院が必要な割合は約20%でした。しかし、ウイルスが変異し、最近流行しているオミクロン株では5%前後と予想します。治療方法もこの2年間である程度開発されてきました。それらの効果についても、医療現場で使う重症度の意味を交えてご説明したいと思います。

●専門：呼吸器感染症 ●杏林大学医学部総合医療学教室（感染症科）臨床教授、杏林大学医学部付属病院感染症科診療科長、感染対策室室長 ●1998年東北大学医学部卒業。神戸市立中央市民病院、東京都立駒込病院勤務を経て杏林大学医学部第一内科（呼吸器内科）入局、同助教、同講師、杏林大学医学部総合医療学教室准教授を経て2021年6月より現職。

家庭で役立つ新型コロナウイルス感染対策

福川 尚克

世界的な感染拡大を見せる新型コロナウイルス感染症は、医療従事者のみならず一般市民にも感染対策を意識させるきっかけとなりました。感染流行時には行政機関や医療施設が機能麻痺を起こす事態が発生し、専門的な知識を持たない方々が適切なアドバイスを受ける機会が少ない中で、感染対策を実践しなければならない状況でした。その状況の中では正しく感染症を理解し、適切な感染対策を選択、実践する事が難しかったのではないかと思います。

家庭での感染対策は医療施設のような設備、資材がない分、より実践が難しい環境とも言えます。食事や家族との談話など、本来家族同士が家族らしく過ごす時間も、感染リスクが気になり過ごしにくく感じた方も多くいるでしょう。家庭の中でこそ無理なく適切な感染対策を実践できるように、正しい知識と技術を身につける事が重要です。

家族や自分が陽性者や、濃厚接触者になった場合、どうすれば家族を感染から守る事ができるのか。感染対策に携わり、多くの事例を通して得られた経験をもとに、紐解いていきたいと思います。

また、医療従事者にも教育をしている手指消毒やマスクの着脱方法といった基本的な感染対策の知識と技術についての解説や、家庭ならではの衣食住に関する感染対策の基本についても解説を行います。

●専門：感染制御、公衆衛生 ●杏林大学医学部付属病院 医療安全管理部 感染対策室 看護師 ●2009年北海道大学医学部保健学科卒業。同年より杏林大学医学部付属病院集中治療室などで勤務。2017年に医科学修士、2019年に公衆衛生学修士を取得。2018年より現職。

職場で役立つ新型コロナウイルス感染対策

長友 禎子

新型コロナウイルスの感染経路は家庭内感染が最も多いものの、職場内感染も多いことが知られています。そのため、職場における感染対策は、感染拡大防止と従業員の生命・健康の保持にとって極めて重要です。

感染対策には、マスク着用、手洗い・手指消毒、身体的距離の確保、換気など、様々な方法がありますが、どれか1つだけやっておけば大丈夫という感染対策はありませんし、職種や職場の作業環境・作業内容によって、実施が難しい感染対策も存在します。さらに、労力がかかり過ぎるような感染対策は、職場が疲弊することにも繋がります。職場の健康管理を行う産業医の立場から、職場の実態に即した感染対策についてお話しします。

●専門：呼吸器内科全般 ●医療法人財団 明理会 東京大和病院内科勤務 ●2004年杏林大学医学部卒業。杏林大学医学部第一内科、東京都立府中病院（現・東京都立多摩総合医療センター）呼吸器科、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 新薬審査第四部に勤務。東京都交通局 健康管理医を経て、2022年より現職。